で養蚕の 81



天蚕 (てんさん)の種を和紙に25粒ほど貼り付けたものをクヌギの枝につける「山つけ」とい5作業を行われる美智子さま。

昭 皇の皇后)、貞明 憲皇太后(明治天

皇后)、香淳皇后(昭和天皇皇后)、香淳皇后(大正天皇の で養蚕が行われてきたことは の文化の継承の仕事として、 さまと、四代の皇后陛下の絹 の皇后)、そして皇后美智子

低いものの葉の生い茂る「し で養蚕所の前には背丈こも 間、皇后自ら蚕をお育てにな 山には、ご養蚕所があり、毎 野の面影を残していた。 だれ桑」の大木があり、武蔵 撮影した。 木造三階建ての ツの水と蚊取り線香持参で 懐かしく思い出される。バケ 蚊の大群に悩まされたことが 周辺で取材撮影の折、やぶ を得て、紅葉山ので養蚕所 る。かつて昭和の時代、許可 年春から初夏にかけて2か月 あまりにも有名だ。 * 千代田の御所にある紅葉 皇居で育てられている蚕の

> ておきたい」と願われたため うしばらく古いものを残し **5。しかし美智子さまが「も** さまがで養蚕を引き継がれ 品種に「小石丸」というも に、飼育が続けられた。 ることが検討されていたとい た際、で養蚕所でも廃棄す った貴重な品種で、美智子 の養蚕農家では扱わなくな りで生産性が低いため、一般 のがある。通常の蚕より小ぶ

るときの足場となる「藁蔟」を手で集め、小石丸が繭を作 備ができた状態になったら蚕 を細かく刻まなければならな い。また、成長し繭を作る準 幼い蚕には餌である桑の葉

> 別なエピソードがある。 官長(故人)によれば、蚕の されるのだが、小石丸には特 祭祀で使われる織物に利用 出される絹糸は、宮中儀式や 込めて丁寧に行なっておられ 温度管理に至るまで、あらゆ も手作りする。 井上和子女 る作業を、美智子さまは心を こらした作業を経て生み

育てられていたのだ。 唯一、皇居でのみ小石丸が 蚕農家はもう扱っていない。 糸では太すぎたという。正倉 なければならず、現在ある絹 代の糸に極力近い糸を使わ 紀の古代裂を復元する計画4) 年から、宝物である8世 石丸が最もふさわしいとわか 院事務所が調べた結果、小 があった。しかしそれには古 ったのだが、何しろ一般の養 正倉院では平成6(199

> まるお手紙をお出しになって さまは眞子さまに大変心温

喜寿記念特別展 紅葉山御養 おり、その手紙は『皇后陛下 嬉しく思っています」と語っ 質問では「御物の復元に役 99)年のお誕生日の記者会 物を救らこととなった。この 立てていただいていることを ことを美智子さまはたいそう お喜びになり、平成11(19 あんだ平たい飼育かごをひと やりましたね…… (後略)」 いるたくさんの蚕に桑の葉をかいている つずつ取り出して、その中に

のお姿が目に浮かぶ。 ね」とほぼ笑む美智子さま とだろう。「 さすがは内親王 はどんなに嬉しく思われたこ をもたれたことを美智子さま 眞子さまがで養蚕に関心

ておられる。

今、美智子さまが心にかけ

文・渡邉みどり

あろう。初孫の秋篠宮眞子ておられるのは経験の継承で



代の手仕事」について調べる 折、社会科で「お年寄りの世 内親王殿下が初等科三年の

伝いをされた。その際美智子

宿題があり、蚕の仕事のお手

学ぶエレガンス』(学研プラス刊) 発売中。最新刊は、『美智子さまに た『美智子さま 美しき人』が好評 特番では総責任者。本連載をまとめ 皇室報道に携わり、昭和天皇崩御 社。皇太子成婚記念パレード以来 大学卒業後、日本テレビ放送網に入 文化学園大学客員教授。1934 わたなべ・みどり ジャーナリスト 昭和9)年、東京生まれ。早稲田

後』において公開された。 蚕所と正倉院裂復元のその

「眞子ちゃんは紅葉山で見

昭和四十一年

夏の日に音たて桑を食みゐし蚕ら

繭ごもり季節しづかに移る

美智子さまのご決断が宝

いるかしら。蚕棚の中の竹で

たいろいろの道具をおぼえて